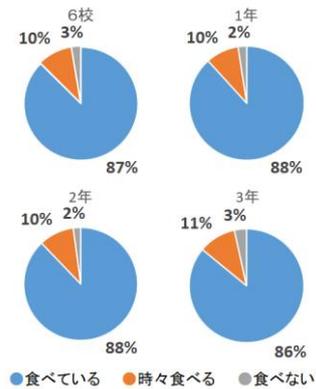


中学校給食における残食アンケート集計結果

残食（食品ロス）を少しでも減らすためにはどのようにしていけばいいのか？それを考え、実行することにより、適切な栄養摂取による健康の保持増進を図ることを目的に生徒対象にアンケートを実施

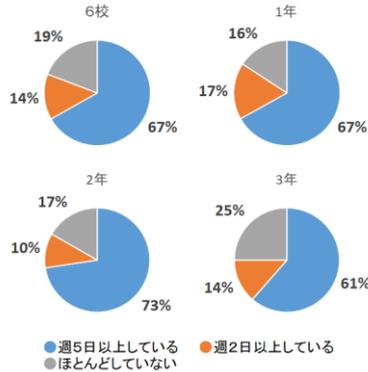
- 実施時期：令和元年 7 月上旬
- 実施方法：香芝市 4 中学校、広陵町 2 中学校の生徒（人数 3, 372 人）

問 1：朝食を食べていますか



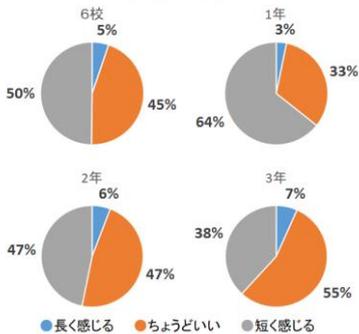
87%が「食べている」
学年による変動はなし

問 2：運動はしていますか
(体育の授業は除く)



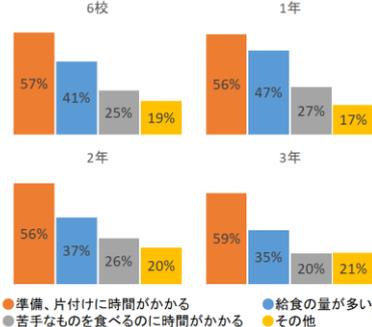
約80%が週2日以上運動している
3年生が減少しているのは部活の引退が原因の1つ

問 3：給食を食べる時間は
どう感じますか



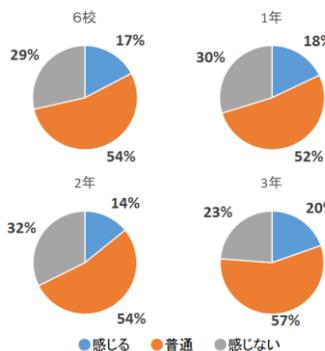
学年が上がる毎に「短く感じる」
から「ちょうど良い」に移行している

問 4：問 3で「短く感じる」と回答した方で、
短いと感じる原因はなんですか（複数回答）



「準備・片付け」学年に関係なく最も多く
次に「給食の量が多い」1年生が突出して多い
その他意見では「友達としゃべっている」が最も多い

問 5：給食は美味しいと感じますか



「感じる」「普通」で70%越えている

問 6：献立についてお聞きします

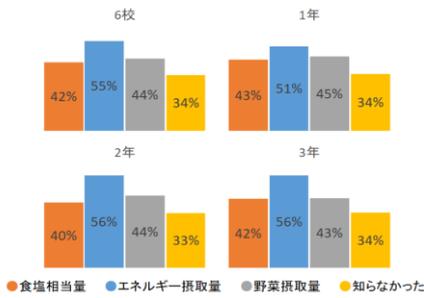
おいしかった献立

- 1位：カレーライス
- 2位：あげパン
- 3位：フルーツ
- 4位：ご飯
- 5位：パン

残した献立

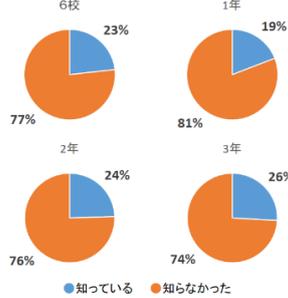
- 1位：野菜類
- 2位：ご飯
- 3位：牛乳
- 4位：魚類
- 5位：パン

問7：学校給食は、次のいろいろな基準などをクリアした上で作られているのを知っていますか（複数回答）



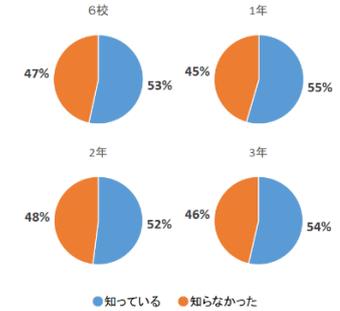
学年に関係なく半数程度の理解にとどまっている

問8：給食センターの年間のご飯の残食量が約17トン（お茶碗85,000杯分）もあるのを知っていますか



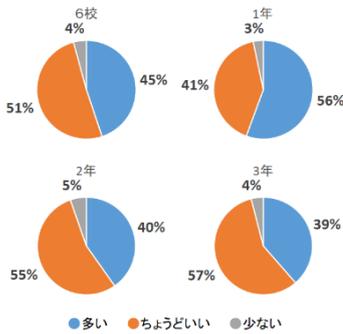
75%強が理解していない

問9：残食の処理に、コスト及び環境に負担がかかっているのを知っていますか



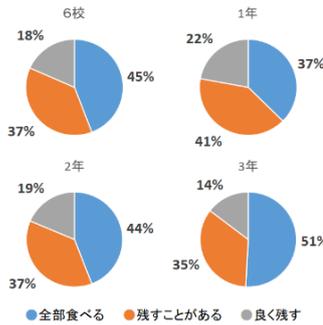
50%強が理解している

問10：給食の量はどうか



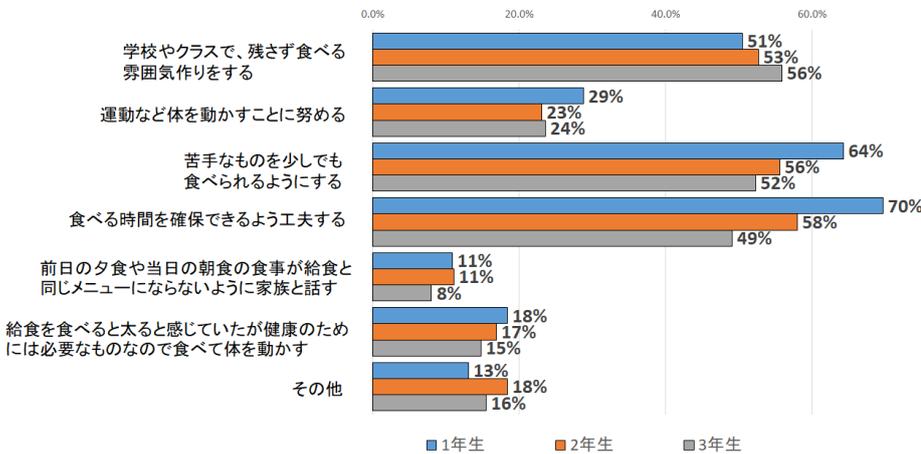
「ちょうど良い」51%、「多い」45%
「ちょうど良い」は学年が上がる毎に増え、それに伴い「多い」が減少

問11：給食は残さず食べていますか



「全部食べる」は学年が上がる毎に増えている
「残す」理由としては「時間がない」「量が多い」「嫌いなものがある」の3つが大多数を占めている

問12：どのようにしたら残食を減らせますか（複数回答あり）



それぞれ半数以上の生徒が、この3項目を残食の原因と考えている

- 「雰囲気作り」
学年による変動なし
 - 「苦手なものを食べる」
学年が上がる毎に減少
 - 「食べる時間の確保」
学年が上がる毎に減少
- 主なその他意見
- ・皆で協力する
 - ・作ってくれる人に感謝する
 - ・まずい等の声を簡単に上げない
 - ・しゃべりすぎない

考察

- 「時間がちょうど良い」「量がちょうど良い」「残さず食べる」の割合が、学年が上がるごとに5~10%上向くことから、給食に対する生徒の慣れ、理解が伺える
 - ・1年生から対策が必要（小学生からの壁）
- 「量が多い」は45%見られる
 - ・成長期の子供たちにとって、必要な量を提供
- 給食の基準の理解、残食による影響の50%、残食量の把握75%が理解していない
 - ・食育、残食についての理解度を深める
- 生徒自身の考え
 - ・「雰囲気作り」
 - ・「苦手な物を食べる」
だしの取り方、野菜の切り方、煮込み具合、メニューの組み合わせ、生徒の意見
 - ・「時間の確保」
器具の工夫、食べやすさの追求